

新潟教育会報

第96号

公益財団法人新潟教育会
(新潟教育会館内)

代表理事 高橋 恒彦

〒951-8104
新潟市中央区西大畑町590番地3
TEL/FAX 025-222-2971
URL <http://kyouikukai.jp>
E-mail 事務局 jimu@kyouikukai.jp
研究所 kenkyujo@kyouikukai.jp

休館日 月曜日

令和3年度の活動がスタート!



令和3年度 第2回理事会
新代表理事の就任挨拶



令和3年度 第1回評議員会
本年度事業についての意見交換

本県教育の振興への寄与を 一層拡充するために



代表理事

高橋 恒彦

五十年にも及ぶ新潟教育会の取組

財団法人新潟教育会は、教職員による研修団体であるときわ会百周年事業の一環として昭和四十七年四月一日に設立されました。新潟県教育委員会に提出された設立趣意書には、以下のようにその趣旨が記されています。

「本県教育の振興への寄与を一層拡充するために、寄附財産の適切な保全と活用をはかり、教育振興の諸事業を将来にわたって永続的に行う。」

以来、夏期大学講座や教育美術展の開催、教育相談事業、特別支援教育への助成、教育資料の収集・公開などの事業を継続発展させ、平成二十四年には「公益財団法人新潟教育会」に移行し、公益性を拡大し県民への広報を促進いたしました。このように長きに渡って新潟県教育振興に寄与してきた新潟教育会は、来年度、五十周年を迎えます。

「令和の日本型学校教育」への寄与

さて、令和三年一月二十六日の中教審答申では、二十年代を通じて実現を目指す学校教育の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」としました。超スマート社会(Society 5.0)や先行き不透明な予測困難な時代の到来を見据え、ICTの活用等による「個別最適な学び」と、これまでも重視してきた「協働的な学び」とを一体的に充実する「令和の日本型学校教育」の構築によって、すべての子どもたちの可能性を引き出すことを求めています。

財団法人新潟教育会がこうした「令和の日本型学校教育」の構築に寄与できるよう、新潟県教育振興に献身的な尽力をされている教育関係者の方々ははじめ、本会の趣旨に賛同してともに歩んでいただいている多くの方々、そして県民の皆様と連携し歩んでまいりたいと思います。

皆様の多大なご支援とご指導をお願い申し上げます。

令和2年度特別支援教育 助成校だより

私たちができる第一歩とは

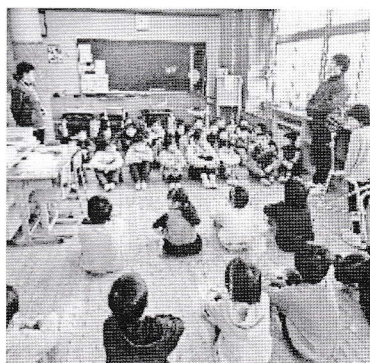
燕市立燕西小学校

吉田 晴彦

当校には、知的障害学級三学級、自閉症情緒障害学級三学級、肢体不自由学級一学級の計七学級に、三十六人の児童が在籍しています。

これまで、交流学級児童と特別支援学級児童が、良好な人間関係を築けることを目指して日々の実践に取り組んできました。その成果として、授業中に困っている特別支援学級児童に「大丈夫？」とさりげなく声を掛けるなど相互に関わり合う姿が見られ、仲間意識が育まれてきています。

こうした姿をもう一歩進めたいと考え、特別支援学級児童がこれまで経験したボッチャなどで遊ぶ活動を組み入れた「わくわくランド」に二年生を招待する生活



「わくわくランド」の説明の様子

単元学習を設定しています。

「招待状を書いて渡しに行く」「ゲームの説明では、受け答えしながら進める」など、役割の中に交流の必然性をもたせ、自分たちが主体となって活動をしながら関係性を深められるようにしています。

「人それぞれ違いがある」「互いに助け合っていく」ということを子どもたちが実感できるようにすることが、特別支援教育に関わる社会的な障壁を乗り越えるために、私たちができる第一歩だと信じています。今後も、一人一人の個性を伸ばしつつ互いを認め合える学習を展開していきます。

子どもの可能性を伸ばすための 支援体制の整備

新潟市立真砂小学校

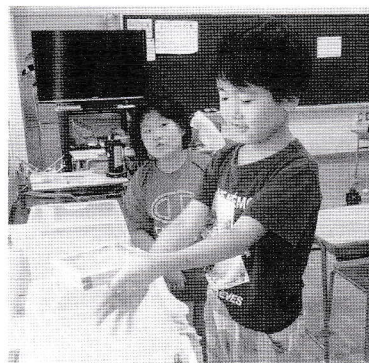
小林 直子

当校には、知的障がい学級が二学級、自閉症・情緒障がい学級が一学級あり、合計十九名の児童が在籍しています。

一日の中で、朝をどのように迎えるかが非常に大切だと考えています。そこで、毎朝十五分程度合同で運動をし、情緒面の安定、運動機能の向上を目指しています。

また、それぞれの学級では、発達段階に差があるため、指導形態の工夫として特別支援学級全体を三つの学習グループに分けて学習を進めています。

一つ目のグループでは、学年の進度に合わせた国語・算数を進め、二つ目のグループでは、個々の実態に即した学習課題や学習ペースを調整した国語・算数の指導をしています。通常学級担任の先生



絵はがき作りに取り組む子どもたち

方にも時間割を配慮してもらっています。三つ目のグループでは、生活単元学習グループを作り、年間を通して畑の学習、収穫体験、調理活動などを行っています。また、指先の操作性を高めるために、コースター作りや牛乳パックを材料にして紙すきの技術を使った絵はがきづくりなどの活動もしています。

このように、複数で児童を見合い、同じ方針で児童にかかわることで、児童のさらなる成長が見られました。

また、学校全体での特別支援学級の理解を深めるために、特別支援コーディネーターが全校児童や保護者に向けて講話をし、理解・啓発をはかっています。

当校の特別支援教育

上越市立城西中学校

植木 厚夫

当校では次のような学校体制を整え、特別支援教育の充実に取り組んでいます。

一、校内就学指導委員会を毎週金曜日の五限に実施し、特別な支援が必要な生徒の教育環境に常に見直しを図っています。参加者は、特別支援教育コーディネ



手作りカレンダーの販売を通して、関わり方を学ぶ生徒

ーター、特別支援教育主任、各学年主任、教頭、主幹教諭です。ここでは、各学年の困り感のある生徒や別室登校の生徒の就学について、外部との連携の必要性を検討したり、WISC検査等実施の検討やそのデータ分析をしたりしています。一人一人のニーズに応じて、特別支援学級、通級指導教室、通常学級などでの多様な学びの機会の提供に努めています。

二、本校の特別支援教育部員のうち、特別支援学校教諭免許状をもつ職員は三名です。他三名は本校に来て初めて特別支援学級を担任しています。毎週木曜日の放課後に特別支援教育部会を開き、常態に即した指導となるよう評価改善を繰り返しています。特別支援教育部員は、原則として部活動の副顧問とし、定期的な部会以外でも常に報・連・相がしやすい校内体制とすることで、生徒一人一人に最適な指導の在り方をチームで作りに上げています。部会では、日々、介護員や教育補助員等の配置見直しも行い、指導体制の充実を図っています。

今後も、集団や社会とよりよく共生できる生徒の育成を目指し、組織的に特別支援教育の充実に取り組んでいきます。

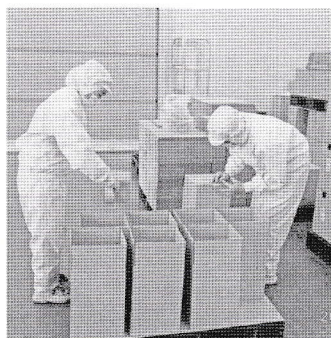
地域との連携と支援 職場体験学習から学ぶこと

新潟市立小須戸中学校

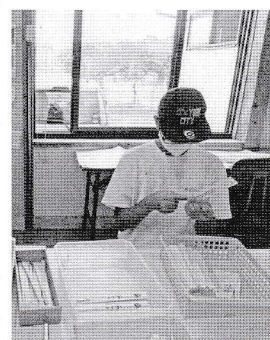
藤井 さと子

特別支援学級の生徒にとっては、将来に向けて「就労の意識付け」「働くことの大切さ」を学んでいくことが大事だと考えています。校外での学習や体験学習は、社会で必要な能力を身に付けることができる場です。当校の特別支援学級は、地域との連携による「職場体験学習」を通して、社会性を身に付ける学習を行っています。中学校がある小須戸地区は、地域の事業所が多くあり、地域コーディネーターが様々な分野に関わっています。地域コーディネーターが長期的に職場体験学習できる場所を探してくれました。

平成二十八年度からは、毎週水曜日五・六時間目に決まった事業所へ通い、作業をしています。同じ場所に毎週通うことで、学校職員以外の大人から褒められることも多くなります。また慣れた作業は、効率があがり「達成感」「成就感」を感じられるとともに次回の意欲へも繋がっています。生徒の職場体験学習の振り返りには「段ボール箱が〇個作れました。次回はもっと作りたいです」



ダンボール箱組み立て作業
(地元の製造加工工場にて)



割りばしの袋づめ作業
(地元のワークセンターにて)

「割り箸入れは、最初は難しかったですが、少しずつ慣れてきたので、また頑張りたいです」など前向きなコメントが記入されています。

保護者の理解や協力のもと、地域コーディネーター、地域の事業所、中学校が連携して、職場体験学習を行うことは「地元への誇りと将来に向けて見通しを持って過ごす力」を付けていくことができるのではないかと感じています。

集団の中でも生かせる力を つけることを目指して

刈羽村立刈羽小学校

入澤 亜由美

当校は全校児童二百四十四名で、特別支援学級は、自閉症・情緒障害学級と知的障害学級がそれぞれ一学級あります。どちらのクラスにおいても児童が安心して学校生活が送れるような環境整備と学習活動の設定に取り組んでいます。

今年度は二クラス合同で、将来につながり、集団の中でも生かせる力を育てることをねらいとして「わかばタイム」を設定しました。週に二回、朝学習の時間を使い、活動をしています。今年度は野菜の栽培活動、話し合い活動、ルールを守って楽しく遊ぶ活動などに取り組みしました。



育てる野菜も相談して決めました

話し合い活動では、自己決定や自己表現の力、主体性を高めることをねらいにしました。大きな輪になり、お互いの顔が見えるようにし、「話す人が話している間は話さない。」「自分の番が来ても言えない時は「パス」と言う。」「というルールを設定しました。言えない時でもパスをする意思表示をすることで、話し合いに参加している意識をもつ様子が見られました。最初は、自分の好きなことについて順に話すことを繰り返して、慣れてきた段階で、テーマについて話し合うようにしました。少しずつではありますが、人前で話すことに慣れ、自分の考えを言えるようになってきています。

このように成長できたことを、交流学級での学習でも生かせるようにしたいと考えています。

個々の改善と克服をめざして

佐渡市両津中学校

杉澤 亮

当校の特別支援学級は、個別の学習支援が中心となっています。ここ数年は、国語、数学、英語の三教科の抜き出し形式が主たるかたちとなっています。通級

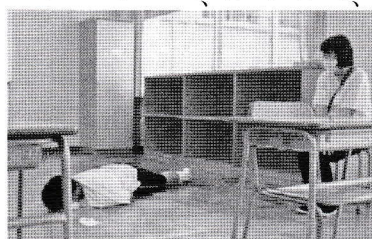
指導加配もあるものの、担当職員が巡回指導で週の半分しか対応できない状況にあります。

特別支援学級に所属する生徒が持つ困り感は、周囲の環境要因に端を発するものから、情緒的なもので様々です。ただ、その困り感の中で、特別支援学級に所属していることを周囲に認知されたくないという思いが8割を占めております。そのような中で、個別指導に参加しない・できない生徒もおり、丁寧で粘り強い親子への説明を継続しております。

また、当校では、通常学級にもグレーゾーンとなる生徒が多数在籍し対応に苦慮しています。周囲の目を気にして虚勢を張り、怠学傾向に陥ったりエスケープや授業妨害に走ったりする生徒も少なからず存在します。

そのような中、当校の特別支援委員会では、生徒個別の対応協議はもちろん、会の運営や対応職員の協議および様々な場面に対応するための時間確保についても協議を重ねております。なかなか手が回らない部分

もありますが、個々の生徒が抱える克服すべき特性に寄り添いながら、学習や支援の方法を実践し続ける毎日、日々精進であります。



生徒が困っている様子を観察し、要因を考察する

※「困り感」は、学研の登録商標です。

令和3年度事業計画

(1) 1 研修講座

夏季大学講座
教育に関する原理的研究、教育的課題解決の方策、社会問題等について学ぶ講座です。

・期日 7月31日(土)

・会場 長岡市 リリックホール
・講師 尾畑 留美子様
きき酒マイスター
尾畑酒造専務取締役

※当日参加できない方のためのビデオ上映会を8月7日(土)のAM10時より、新潟教育会館にて行います。

(2) 教育相談等研修講座

教職員や保護者を対象とした子どもとの信頼関係の確立や子ども理解の力を高めるための講座です。

【教職員のための教育相談研修講座】

・期日 8月5日(木)
・会場 新潟市 ゆいぽーと
【保護者のための子育て出前講座】
・要請者が希望する期日、会場にて実施します。

(3) 教師力アップ講座

最新の教育課題の解決に向けた具体的な指導方法を学ぶ講座です。

・期日 7月25日(日)

○ 会場 新潟教育会館

○ 第1講座 特別支援教育関連講座

講師 古田島 恵津子様

○ 第2講座 ICT教育関連講座

加茂市立加茂西小学校長
講師 高橋 恒彦様
新潟大学特任教授

2 教育アドバイザーの派遣

要請に応じて、豊かな経験と知識・技能をもつ教育アドバイザーを教職員や保護者等の研修活動に派遣します。
謝礼や交通費を新潟教育会が負担します。(1回分に限りま)

3 新潟教育会美術展(教美展)

現職、退職教職員等の美術作品の発表、鑑賞、技能向上の機会とする取組です。県民への公開も行います。

令和3年度は会場の新潟県民会館改修工事のため、紙上での作品発表となります。

4 教育資料室の運営

教育研究に役立つよう、貴重な教育資料を収集、整理、保管するとともに、蔵書データベースの作成を継続して活用供します。

5 特別支援教育への助成

特別支援教育で成果を挙げている学校に5万円の助成を行います。
助成校の取組の概要を会報等で紹介します。

6 「教育研究論文集」の募集

教職員の研究意欲と資質・能力の向上を目指し、優れた教育実践とその成果を紹介し、隔年発行で、今年度は論文の募集を行います。

7 「教育調査報告書」の計画(延期)

様々な教育課題について、教職員や保護者の意識や実態の調査と報告書の発行を通して改善策を提言する取組です。今年度は計画策定の予定でしたが、コロナ禍等の状況から延期します。

8 教育会館の運営

研修や教育・文化活動のための教育会館施設・設備の利用に供します。
WiFiの設置により、リモート研修等のホスト会場としても利用できます。

9 教育会・研究所の活動並びに教育情報発信

『新潟教育会要覧』『新潟教育会報』『新潟教育研究所報』『新潟教育会ホームページ』等で、最新の情報をお伝えします。

令和3、4年度教美展の予定

令和3年度Ⅱ紙上美術作品発表

画像にて出品していただいた美術作品を作品集に仕立て、教育会を後援していただいている皆様に送付します。
出品依頼と作品集の発送は、次のように計画しています。

・作品の出品依頼 6月上旬
・作品集の完成、発送 12月上旬
※たくさんの方からの出品をお願いします。

令和4年度Ⅱ第24回新潟教育会美術展

・期日 令和4年11月22日〜28日
・会場 新潟県民会館

教育会館の利用について

教育会館の施設・設備を研修や教育・文化活動にご利用ください。

利用に際しては、事前予約が必要です。
利用可能日・時間は、月曜を除くAM9時〜PM9時(土、日も利用可)。予約は、月曜を除く平日のAM9時〜PM4時。
利用後に「利用報告書」を提出してください。会館の入口に用意してあります。

AEDを設置しました!



一階、相談室入口前に、AED(自動体外式除細動器)を設置しました。会館使用時に、ご確認ください。

令和3年度 役員

代表理事		評議員	
高橋 恒彦		荒木 一成	
理事		事務局	
森 正司		逢坂健太郎	
脇野 哲郎		吉原 修平	
熊倉 達也		宮川由美子	
村川 孝子		樋口 光栄	
吉田 隆		山田 浩之	
		山田 耕世	
		大岩 樹生	
		館岡 信也	
監事		幹事	
小林 修		池野 正晴	
宮内 章		岸本 卓也	
鷺津 毅史		齋川 英子	
		橋本 定男	
		山岸 修	

周年事業のお知らせ

新潟教育会は、来年令和4年に、創立50周年、公益財団法人への移行10周年を迎えます。どのような形でその記念すべき年を迎えるかについて、現在準備委員会検討しています。詳細が決定次第、お伝えします。

あとがき

本号は、新代表理事の巻頭言、令和2年度特別支援教育助成校の取組紹介、本年度の事業計画を中心に編集しました。昨年度は、コロナ禍の影響をまろに受け、事業の中止や変更が続きました。現状からすると、今年度も厳しい状況が予測されますが、工夫を凝らし、できるだけ多くの事業を実施してまいりたいと思います。コロナ感染を防ぎながら、新潟の教育発展のために共に歩みましょう。